

北沢建設株式会社

この町の
道をつくろう。



北沢建設株式会社

〒395-0085 長野県飯田市吾妻町7番地
Tel 0265-23-0072 Fax 0265-23-0940
www.kitazawakensetsu.co.jp/

道をのばす。
橋をかける。
飯田の町のそこかしこ、
私たちの技術が、
走っています。



松川町近辺にて

いつもの道をつくろう。

私たち北沢建設は、長野県飯田市を中心に、道路や橋、トンネルなどの工事を行う会社です。

私たちの仕事のいいところは、

つくった道や橋を、

使う人の顔が見えるところ。

地元・飯田の役に立っていると

たしかに実感できる場所です。

日本中の誰もが知るような有名な仕事は、

まだまだありませんが、

小学校や中学校の同級生に、

「じつはあの道…」と自慢できます。



県道上飯田線阿島橋にて

橋梁の補修？

なんでそんなことやるの？

阿智村から平谷村へ

国道一五三号線を、豊田方面に下っていく途中にある青い橋。あの橋が、北沢建設が本格的にメンテナンスの仕事を始めるときっかけになりました。

「土木業者に頼んだ意味がなかった」

土木のプロの見地から、橋の塗装だけでなく、老朽化についても提案が欲しかったと発注者からご指摘をいただいていたのです。

ちょうど右肩上がりだった建設業界全体の成長にかげりが見え始めた二〇〇〇年の頃のこと。

他と同じことをやっているだけでは、生き残れない。

言われた通りに施工するだけでは、だめだ。土木のプロだからこそできること、あえてみんながやろうとしないことを、やろうじゃないか。

赤字が必至と言われたメンテナンスの仕事にのりだしました。

なんでそんなことやるの？

誰もが口をそろえて言うような時代から十数年以上の時が経ったいま、高度経済成長を支え、人々のくらしに寄り添ってきたインフラの本格的な老朽化対策の必要性が声高に叫ばれるようになりました。日々の新しい勉強と豊富な経験がモノを言うメンテナンス。インフラ・ドクターⅡ北沢建設の出番も、年々増え続けています。



平谷村近辺にて

道にも、いのちがある。

まったくの新しい道をつくる仕事と、
すでにある道を長持ちさせる仕事。
いまは、だいたい半々くらいです。

人に寿命があるように、道にも寿命がある。
町医者が患者さんの痛みの原因を探るのと同じように、
私たちも道路や橋をつくるだけでなく、
その傷みの原因を探っていきます。

大きな病院の助けを借りないと原因がわからないときは、
専門のコンサルティング会社に協力を要請して、
精密検査を行います。(コンクリートにも、人間みたいに
専用のレントゲンがあるんです。)

肉眼ではわからないようなひび割れまで調べてから、
はじめてメンテナンスに取りかかります。

直すというより、治すといった方が正しいかもしれません。



東京、愛知間を結ぶ県南のメイン道路国道153号線

つまずいたり、
立ち止まったり、



歩いたり、
走ったり、



私たちの足あと

社会資本はインフラ (Infrastructure) と言いますが、これは文字どおり下部構造のこと。社会経済の縁の下の力持ち=下部構造の町医者として、地域の人々の安全・安心で快適な生活を陰に日向に支えています。これからはあなたも一緒に。

| 土木工事



道路改良 / 三遠南信富田



橋梁下部工 / 天竜川宮ヶ瀬橋



河川護岸工 / 天竜川大島



砂防ダム工 / 辛抱洞



舗装工 / 三遠南信天竜峡IC



法面補強工 / 和田バイパス

| 橋梁補修工事 / 調査設計業務



耐震補強工 / 三遠南信喬木インター橋



床版打替工 / 153号第一横岳橋 (設計施工)



剥落防止・断面修復 / 中央道松本



PCグラウト再充填工 / 中央道荒井富士山橋



支承取替工 / 東名高速愛鷹橋

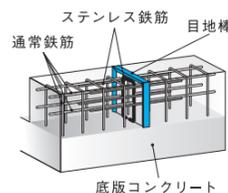


橋梁点検 / 間が沢大橋

失敗が工夫を生み、必要が技術を磨く (特許技術)

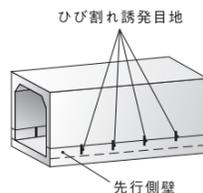
| SD-Bridge工法

道路橋における鉄筋コンクリート壁高欄や地覆などの新設や打換えでのひび割れを防ぐ新工法。壁体部に高い防食性能を有するステンレス鉄筋を用いた誘発目地を設けることで、構造的な一体性と構造物の耐久法を確保します。



| ND-WALL工法

鉄筋コンクリートによるボックスカルバートや、橋梁下部工などの初期ひび割れを抑制する新工法。底版上部に収縮低減目地を設置した先行壁体部を設け、底版による拘束を大幅に低減させることで、ひび割れを抑制します。



人の暮らしがあるところには、必ず道があります。

この町に人が住み続ける限り、道をつくる仕事も、ずっと続きます。私たちがつくった道は、ずっと残ります。

この先一〇年二〇年と、町の人たちが使う道だから、仕事の品質には、とことんこだわりたい。私たち自身、まだまだ成長していきたい。この先を、一緒に歩んでいく新しい仲間を待ちながら。

道は、まだまだ続きます。